第 25 期 日本学術会議 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会
第 2 回分科会議事録

1. 日時 2021 年 12 月 17 日（金）10:00～12:00

2. 場所 遠隔会議（主催会場：中部大学超伝導・持続可能エネルギー研究センター）

3. 出席者（敬称略）

出席者（26 名）：筑本（副委員長）、板垣（幹事）、藤原（幹事）、朝倉、荒川、金田、河田、木本、桑野、小長井、澤木、瀬山、高木、玉田、為近、富永、中野、納富、橋口、波多野、飛龍、堀、松尾、三間、森、渡辺

欠席者（6 名）：天野、伊藤、大野、寺崎、根本、保立

4. 資料

資料 1 第 1 回議事録

資料 2 分科会名簿

資料 3 第 25 期の分科会活動について

資料 3-1 「科学的助言機能のあり方の見直し」関連資料

資料 3-2 提言要旨「日本の停滞を打破し新産業創出を促す社会基盤と研究強化」

資料 4（参考資料） パワーレーザー関連の公開シンポジウム開催予定の紹介

5. 議事概要

1. 前回議事録確認

筑本副委員長より、資料 1（前回の議事録）の内容確認とともに、伊藤委員長が事情により委員長を辞任される旨の説明がなされた。

2. 委員長交代による新委員長、新副委員長の選出

資料 2 で分科会名簿の確認を行った上、互選により、委員長として筑本副委員長が新委員長に選出された。これに伴い、新たに副委員長の選出が必要となり、筑本委員長が高木委員を推薦し新副委員長として承認された。

3. 第 25 期の分科会活動について

筑本新委員長より、資料 3 に基づき、第 25 期の分科会活動を議論するための状況説明がなされた。まず、日本学術会議全体の最近の動向として、日本学術会議における科学的助言機能の在り方の見直しの状況について紹介がなされた（資料 3-1）。意思の表出の一つであった「提言」については、より数を絞って社会的認知度を高めるため、発出主体を従来の分科会主体から学術会議主体に変更する一方、分科会からは新たに「見解」が発出できるとする会則変更が 12 月の総会で承認された。今後は、提案～査読までのプロセスについて 1 月中を目途に方針が具現化されていく予定であるが、分科会主体として「見解」「報告」の表出が可能であること、また分科会が「提言」を提案することもできる点、などについて説明がなされた。また、未来の学術振興に向けて、より骨太なビジョンの提示を行うため、マスタープランについての見直しが検討されていることも紹介された。

続いて、学術会議全体として国の総合的・中長期的課題に関する指針を示す役割を担うために、カーボンニュートラル（ネットゼロ）、パンデミックと社会などに関する連絡会議、我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会（山口周委員長、学術フォーラムを 2021/12/11 に開催）が設置され、活動が始まりだしつつあることが報告された。特に、当該検討委員会については、日本の研究力の低下など本分科会がこれまで中心的に原因の分析、シンポジウム開催（豊田長康先生のご講演など）を通して情報発信を続けてきた課題が、日本学術会議全体の共通の問題として認識され、国の政策への反映を目指すような取り組みへと発展しつつある状況であり、本分科会として今後も関与や支援活動を継続すべき点について中野委員より補足された。

状況説明の最後として、昨 24 期に本分科会より発出した提言（資料 3-2）の主要 3 項目「研究評価に

かかる時間的コストの削減」「新産業創出に向けた多様な研究人材の支援」「産学連携における人材交流促進と地域との連携によるイノベーションエコシステム構築」について概要説明がなされた。また、提言作成を担当した松尾前委員長、為近前幹事（提言WG）、各委員から、その背景、趣旨や骨子について、補足の説明がなされた。

以上の状況説明の後に、第25期の分科会活動に向けて、分科会委員より、多面的に意見交換がなされた。昨期の提言のフォローアップやさらなる発展への取り組み、独法化以降の大学の在り方の見直しや改革をさらに明確に提言してく取り組み、産業と学術をつなぐ人材育成やダイバーシティへの取り組み、博士人材に活躍の場を与えるような企業を巻き込んだ活動、応用物理分野として先取りできる新しい問題を提起していく取り組み、などについて意見が出された。また、当分科会のこれまでの活動や提言が、学術会議全体の問題として浸透しさらに前進しつつあること、国による博士学生への経済的支援などが実現しつつあること、今後も国の最新の施策を把握しつつ不十分な点について具体的に意見を述べていくことが重要であることなどが指摘された。

・その他共有された情報

提言「学術の振興に寄与する研究評価を目指して」科学者委員会研究評価分科会 2021年11月25日

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-t312-1.pdf>

博士人材の活躍状況：JGRAD（博士人材データベース）NISTEPにより2014年より整備

<https://jgrad.nistep.go.jp>

4. その他

三間委員より、本分科会の関連分野であるパワーレーザーに関する公開シンポジウム「将来のエネルギー科学技術に向けたパワーレーザーと高エネルギー密度科学の役割と展望」（エネルギーと科学技術に関する分科会主催、2021年2月3日）開催について紹介がなされた（資料4）。

5. 今後の予定

本日の意見交換を参考に、幹事団で活動方針について検討を行い、次回委員会（来年3-4月）で議論を行う。

以上（藤原 記）